

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語は、全国と比べて高い平均正答率になっています。「話す・聞く」「書く」「読む」ことでは、全国平均を上回り、日頃からの継続した取組の成果が表れています。一方で、知識及び技能の「情報の扱い方に関する事項」が平均値を下回っており、情報と情報に関連づけること、送り仮名に注意して文の中で漢字を使うことに課題があります。
- ・算数も、全国よりも高い平均正答率です。特に「図形」「データの活用」の領域においては全国平均を大きく上回っています。正三角形の意味や性質についての理解、面積の大小の比較から理由を記述する問題では、学習の定着がみられますが、引き続き、言葉や式を用いて考えたことを記述する力を向上させる必要性があります。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
ほとんどの質問について、全国と比べよい傾向が見られます。特に、「人の役に立つ人間になりたい」「いじめは、どんな理由があってもいけない」「国語・算数の勉強は大切である」「先生は理解できるまで教えてくれる」について、とても高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
新聞、インターネット、読書等、多様な情報に触れ、さらに視野を広げる機会をもつことが課題です。「PC・タブレットなどのICT機器の学習への利用時間」が全国平均と比較して少ない児童の割合が高い傾向にあります。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・学習規律を整え、児童が集中して授業に取り組める環境を整えます。また、自分の考えや思いを伝え合う活動を取り入れ、考える力、判断する力、表現する力を育てます。
- ・国語の学習では、情報と情報に関連づけること、文の中で漢字を使うなど、文章に表す活動に取り組みます。
- ・算数では、二つの数量の関係から知りたい数量の求め方を式や言葉を用いて、記述する問題の復習をし、定着を図ります。
- ・授業の中にICT機器の活用をこれまで以上に取り入れ、自ら意欲をもち個に応じた学習や協働的な学習に取り組めるような授業の工夫を行います。
- ・引き続き「NIE」（教育に新聞を取り入れる取り組み）を通して、新聞を活用した学習を計画的に取り入れ、新聞に触れる機会を増やしていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・「家庭学習の手引き」を活用し、自ら学習に取り組めるよう声をかけていただくとともに、一緒に考えたり学ぶ姿を見せたりするなど、関わりを増やしてあげてください。
- ・学校での勉強や遊びの様子、また、地域や社会で起こっている問題や出来事について話題にし、家族での会話を心がけてください。
- ・端末は甲斐市みんなのものです。家庭へ持ち帰る際は、ゲーム、スマートフォン、パソコン等と同様、使用方法、情報モラルを守り正しく使用できるよう声をかけてください。